

履修の手引き

《国際関係学部 2026 年度入学者用》



公立大学法人
島根県立大学

履修の手引き 国際関係学部（2026年度入学者用）

[目次]

I	修学にあたって	
1	学修の流れ	1
2	履修登録	1
3	授業	5
4	単位数と授業時間数	9
5	試験	10
6	成績評価	12
7	学生による授業アンケートの実施について	13
8	オフィスアワー	13
II	単位互換・単位認定について	
1	単位互換	14
2	海外留学による単位認定	15
3	資格試験による単位認定	16
III	転学部・転コースについて	
1	転学部について	19
2	転コースについて	19
IV	本学大学院への進学について	20
V	国際関係学部のカリキュラム	
1	教育目標	22
2	教育方針	23
3	コース制	25
4	卒業認定と学位について	25
VI	国際関係コース	
1	国際関係コースの教育方針	27
2	国際関係コースの教育課程の構成と卒業要件	29
3	国際関係コースの英語及び北東アジア言語の履修について	31
4	国際関係コース指定の必修科目（英語科目を除く）について	32
5	国際関係コースの演習科目の履修について	33
6	国際関係コースの自由選択科目の履修上の注意事項	34
7	国際関係コースのその他、履修上の注意事項	34
VII	国際コミュニケーションコース	
1	国際コミュニケーションコースの教育方針	36
2	国際コミュニケーションコースの教育課程の構成と卒業要件	38
3	国際コミュニケーションコースの英語及び北東アジア言語の履修について	40
4	国際コミュニケーションコース指定の必修科目（英語科目を除く）について	42
5	国際コミュニケーションコースの演習科目の履修について	42
6	国際コミュニケーションコースの自由選択科目の履修上の注意事項	44
7	国際コミュニケーションコースのその他、履修上の注意事項	44
VIII	授業科目表	
	■国際関係学部授業科目表	46
	■（参考）地域政策学部授業科目表	52

※本書の内容について、変更・訂正をおこなった場合は、学生情報システムに掲載しますので、確認するようにしてください。

I 修学にあたって

1 学習の流れ

学修をするにあたっての大きな流れは以下のとおりです。

- 履修登録…自分が履修をしようとする科目を登録します。
- 受講…履修登録をした授業は毎回出席してください。履修登録期間中も正規の授業期間です。受講希望の科目には、必ず初回講義から出席してください。
- 期末試験…試験に替えて課題提出となる科目もあります。
- 成績評価…科目担当教員が成績評価をします。成績は、学生情報システム（UNIPA）から参照できます。なお、年2回、大学から保護者の方に「成績通知書」を通知します。

2 履修登録

「履修登録」とは、各学期（春学期と秋学期）に履修したい授業科目を登録し、自分の「時間割」を作る作業のことです。「履修の手引き」のほか、「時間割表」及び「シラバス（授業計画書）」を参考にして「履修登録」を行います。履修登録期間は年に4回設けられています（春学期通常講義、春学期集中講義、秋学期通常講義、秋学期集中講義）。履修登録を怠ると、授業科目の受講者として認められず、試験を受けて単位を修得することができません。忘れずに履修登録を行ってください。

本学では、コース毎に定めるディプロマ・ポリシーを達成するために体系的な教育課程を編成しています。一方で、学生自らの主体的意思と学修意欲に応じて多様な知識を身につけることができるよう、選択科目も多く設定しています。自分の将来イメージを抱きながら、どのような知識・能力を身につけたいかをよく考え、在学期間における学修目標を立て、計画的かつ効果的な履修を行うことが大切です。

(1) 授業科目の区分

教育課程における科目群の大きな括りとして、「基礎教養科目群」「専門基礎科目群」「専門科目群」を設定しており、各授業科目は3つの科目群のいずれかに配置しています。

基礎教養科目群	社会に出る上で必要となる基礎知識を学修する授業科目を幅広く配置します。浜田キャンパスの共通科目であり、国際関係学部、地域政策学部の学生が履修します。
専門基礎科目群	学科・コースで学修していく上で必要となる専門分野の基礎知識などを学修する授業科目を配置します。
専門科目群	学部及び各コースのディプロマ・ポリシーを達成するために必要となる専門分野の知識などを学修する授業科目を配置します。

(2) 授業科目の大別

授業科目には、講義、演習、実験・実習があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目
選択必修科目	指定された科目の中から選択し、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目
選択科目	科目群の区分ごとに定められているものの中から選択して履修する授業科目

また、地域政策学部の専門基礎科目群及び専門科目群では、コースごとに、それぞれのカリキュラム・ポリシーを踏まえて「コア領域科目」と「関連領域科目」を設定しています。

コア領域科目	各コースの学びの中核となる基本的な概念及び専門的な知識・理論を学ぶことを目的とした授業科目
関連領域科目	「コア領域科目」と併せて履修を推奨する授業科目

(3) 開講の種別

授業には、授業期間中に毎週開講する科目のほかに、隔週で開講されるもの（隔週開講科目）や授業を短期間に集中して行う科目（集中講義科目）があります。

毎週開講	毎週 1 コマの授業を行います（語学の授業の一部は週 2 コマ）。
隔週開講	2 週間に 1 回 2 コマ連続で授業を行います。 (但し、隔週の授業実施とならない場合がありますので、講義日については時間割表の裏面で確認をしてください。)
集中講義	原則として、集中講義期間中に 5 日間程度の期間で 1 日 3 コマないし 4 コマの授業を行います。毎週開講する科目と異なり <u>欠席すると単位未修得となるリスクが高い</u> 講義ですであらかじめ体調管理等、相当の準備・覚悟の上、履修してください。 ・春学期集中講義期間（9 月中） ・秋学期集中講義期間（2 月中） ※土、日、祝祭日や上記集中講義期間外の休業期間中に実施されることもあります。 ※履修登録者が 5 名未満の集中講義科目については、原則として非開講とします。（必修科目、選択必修科目、実習科目についてはこの限りではありません。）

(4) 履修登録の時期及び方法

履修登録は、各学期の履修登録期間中に自分で行います。その学期に履修しようとする科目を、パソコンやスマートフォンを使って学生情報システム (UNIPA) の「履修登録画面」から登録をします (集中講義科目は UNIPA の掲示より申込を行います)。科目によっては、受講できる人数を制限し、事前に受講生を決定することもありますので、学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」で確認してください。受講を認められていない学生が許可なく履修登録を行っても、その科目の履修は認められませんので注意してください。

(5) 履修取消制度

履修登録した科目を取り消し、受講した後のミスマッチを解消する制度です。

履修を取り消そうとする場合は、指定された期間内に「履修登録取消願」を学務課教務係へ提出してください。

※集中講義については、初日講義終了後までに提出してください。

※取り消したことによる追加登録は認めません。

(6) 履修登録上の注意事項

① 卒業に必要な単位（卒業要件）

本学を卒業するには124単位以上（科目区分ごとに修得しなければならない単位の合計）を修得する必要があります。

さらに、コースによって卒業要件が異なっています。自分が在籍するコースの卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

② 年間履修登録単位数

1年間で履修登録できる単位数の上限は40単位です。

ただし、下記の授業科目に限り、1年間で履修登録できる40単位を超えて履修することができます。

科目群の名称	授業科目名
基礎教養科目群	「海外英語研修」「海外中国語研修」「海外韓国語研修」 「海外ロシア語研修」「異文化理解（アメリカ）」「異文化理解（カナダ）」「異文化理解（中国）」「異文化理解（韓国）」 「異文化理解（ロシア語圏）」「キャリアプラクティス」
地域政策学部 専門基礎科目群	「フィールド基礎実習 A」「フィールド基礎実習 B」 「地域理解（国内研修）」
専門科目群	「卒業研究」

単位を修得するために必要な学習時間（予習・復習など）を考慮して、1年間で履修登録できる単位数に制限を設けています。この単位数を超えて履修登録することは原則としてできません。

成績評価が「不可」「放棄」となった科目も、この40単位に含まれます。

※3年次終了時に80単位を取得していない場合、4年間で卒業することが困難になります。

③ 重複履修登録の禁止

同じコマ（ex.月曜日1時限目＝コマ）に複数科目を履修登録することはできません。

また、集中講義についても、1日でも講義日が重なっていると履修はできません。

「時間割」は年度当初に、学務課教務係から周知します。

④ 既修得単位の再履修

既に単位を修得した授業科目については、原則、再度履修登録することはできません。

⑤ 未修得単位の再履修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、翌年度以降において再度履修登録することができます（成績評価が「不可」及び「放棄」の場合）。

なお、必修科目の単位を修得できなかったときは、翌年度に必ず再履修しなくてはなりません。

時間割上の授業科目の配置によっては、必修科目を再履修することにより、他の科目の履修登録ができなくなるなど学修計画に支障が生じることがあります。必修科目の単位については、配当年次に修得するように心がけてください。

⑥ 配当年次

時間割表などに記載されている科目の「配当年次」とは、履修を推奨する年次を示しており、その学年以上の学生が履修できる、という意味です。たとえば2年次配当科目であれば、2～4年生が履修することができます。また、1年次配当科目は1年生しか履修できないというわけではありません。

⑦ 履修人数の制限

授業の教育効果を高めるため、履修人数の制限を設ける授業科目があります。対象となる授業科目については、学生情報システム（UNIPA）でお知らせしますので、各自よく確認してください。

(7) 語学（英語・北東アジア言語）科目の履修

必修科目の「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」は、入学前に受験したTOEICのスコアを用いた能力別のクラス編成となっています。入学前に受験することができなかった場合は、入学後に再受験の機会を設けます。再受験の期限内に受験しなかった場合は、秋学期の「英語Ⅱ」を履修することができません。

語学（英語・北東アジア言語）科目の履修については、入学時の履修ガイダンスにて担当教員から説明があります。

3 授 業

(1) 学期

浜田キャンパスでは1年を2学期に分けて授業を行っています。(=セメスター制)
春学期(4月～9月) 秋学期(10月～翌年3月)

(2) 授業時間

授業は、1回90分を単位として行います。この単位のことを「コマ」と言います。1日の1限から6限までの授業時間は以下のとおりです。

第1時限	9:00～10:30	第4時限	14:50～16:20
第2時限	10:40～12:10	第5時限	16:30～18:00
第3時限	13:10～14:40	第6時限	18:10～19:40

ただし、基礎教養科目群の英語の一部の授業は前半クラス・後半クラスに分けて、1回45分の授業を週2回行います。

第1時限	8:55～9:40(前半)	9:45～10:30(後半)
第2時限	10:35～11:20(前半)	11:25～12:10(後半)
	または10:40～11:25(前半)	11:30～12:15(後半)
第3時限	13:05～13:50(前半)	13:55～14:40(後半)
第4時限	14:45～15:30(前半)	15:35～16:20(後半)
第5時限	16:25～17:10(前半)	17:15～18:00(後半)
第6時限	※該当科目なし	

【対象科目】

[春学期] (英語) 英語Ⅰ
[秋学期] (英語) 英語Ⅱ

(3) 休講及び補講等

① 休講・補講

授業科目の担当教員が校務、出張、学会出席、病気などにより授業ができなくなった場合には、休講となります。休講した場合には原則として補講を行います。休講・補講については、学生情報システム(UNIPA)でお知らせしますので、毎日確認をするようにしてください。

② 教室変更

都合により教室を変更することがあります。この場合も学生情報システム(UNIPA)でお知らせしますので、毎日、授業開始前に確認をするようにしてください。

(4) 欠席

① 1週間以上継続して欠席する(した)場合(公欠にはなりません)

「欠席届」を学務課教務係まで提出してください。疾病又は負傷による場合は診断書を添付してください(欠席届を提出しても公欠にはなりません)。

② 公欠の取り扱いにより欠席する場合（公欠になります）

以下に該当する場合は、「欠席届」を学務課教務係まで提出すれば、公欠扱いとなります。欠席期間が1日でも届け出てください。

◇忌引（続柄・葬儀の場所によって公欠日数が違います。下表参照）

死亡した者	限度日数	備考
父母	7日	遠隔地に赴く必要のある場合には、実際に要した往復の日数を限度日数に計算することができます。
祖父母、兄弟姉妹	3日	
曾祖父母、伯叔父母、甥姪	1日	
配偶者	10日	
子	5日	

◇風水震災その他非常災害及び交通機関の事故等（証明できる書類を添付してください。）

◇裁判員制度（裁判員の参加する刑事裁判に関する規則）に基づき、裁判員に選任され、これを受諾したことにより、裁判に参加することが必要となった場合（証明できる書類を添付してください。）

◇公益財団法人日本骨髄バンクのドナー又はドナー候補者として、検査、入院、健康診断などを行う場合（公益財団法人日本骨髄バンクが作成する書類を添付してください。）

③ 学校感染症に罹患し、出席停止を命じられた場合（公欠になります）

次の表に該当する病気にかかった場合は「出席停止」となります。

なお、感染症区分については法令等により変更となります。都度、学内メールや学生情報システム（UNIPA）等で周知します。

感染症区分	病名	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、 特定鳥インフルエンザなど	治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日間経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するか、5日間の抗菌性物質製剤による治療終了まで
	麻疹	解熱後3日間経過するまで
	流行性耳下腺炎	腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状の消退後2日間経過するまで
	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで

感染症区分	病名	出席停止期間
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、※その他の感染症	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで

※その他の感染症とは

学校での流行を防ぐため、必要があれば第三種の感染症として措置をとることができる疾患です。出席停止の指示をするかどうかは、地域や学校における感染症の発生・流行の態様などを考慮の上で判断されます。以下に条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例を挙げます。

- 溶連菌感染症 ○ウイルス性肝炎 ○手足口病 ○伝染性紅斑（りんご病）
- ヘルパンギーナ ○マイコプラズマ感染症 ○流行性嘔吐下痢症

学校感染症にかかった、又は、かかった疑いがある場合は、報告フォームより**必ず罹患報告をし**、自宅等で静養し、外出を控えてください。医療機関で受診後、検査の結果が出る間も公欠扱いとなります。出席停止期間満了後（回復した後）に「欠席届」に登校許可証明書または医療機関等の診断書を添付して提出することにより、公欠扱いとなります。

報告フォームに入力するだけでは公欠になりませんので、ご注意ください。報告フォームは、[大学ウェブサイト](#)>在學生の方へ>浜田キャンパス「欠席の取り扱いについて」より確認してください。

④【4年生以上のみ対象】就職活動により欠席する場合（公欠にはなりません）

就職活動により授業（集中講義は除く）を欠席する場合は、原則として、欠席後1週間以内に科目ごとの「就職活動による欠席届」（4年生以上のみ提出可能）を授業担当教員に提出してください。公欠にはなりません。なお、「就職活動による欠席届」を提出する際には就職活動の内容（日時、場所、活動内容）を明らかにして、本部棟1階事務室（学務課キャリア・学生支援係）で確認を受けてください。本部棟1階事務室（学務課キャリア・学生支援係）での確認印がない欠席届は無効になりますので注意してください。

ただし、島根県立大学国際関係学部・地域政策学部履修規程第5条により出席授業時間数が全授業時間数の3分の2に満たない場合には試験を受けることができませんので、就職活動といえども安易に授業を欠席することがないように計画的に就職活動を行うようにしてください。

※「就職活動による欠席届」は本部棟1階事務室（学務課キャリア・学生支援係）にあります。

(参考) 欠席理由別の届出様式と届出先及び添付書類

欠席理由	届出書	提出先	取扱	添付書類
忌引	欠席届	学務課 教務係	公欠	会葬礼状の写し等
風水震火災その他非常災害及び交通機関の事故等の場合				交通機関の発行する「事故証明」等
裁判員に選任された場合				通知書等
学校感染症に罹患し、出席停止を指示された場合				診断書の写し、登校許可証明書等
日本骨髄バンクのドナー又はドナー候補者として、検査、入院、健康診断などを行う場合				公益財団法人日本骨髄バンクが作成する書類
疾病などで1週間以上継続して欠席する(した)場合			公欠にはならない	診断書の写し等
「異文化理解」の査証手続きによる場合				(事務局が確認をします)
協定留学の査証手続きによる場合				
災害ボランティア活動に参加する場合				
就職活動による場合 【対象：4年生以上】	就職活動による欠席届	科目担当 教員	(キャリア・学生支援係職員が確認します)	

なお、授業日数の少ない集中講義の欠席について、欠席の期間によっては履修(成績)上の配慮ができない場合がありますので注意してください。

各様式については、本部棟 1 階事務室①番窓口前にあるレターボックスにある用紙を使用して、提出してください。

(5) 異常気象及び自然災害等発生時の授業の取扱い

下記のような異常気象及び自然災害等が発生した場合は、原則として休講となります。

- ①浜田市において、気象にかかる特別警報(高潮、波浪を除く)又は台風による暴風警報が発令された場合。
 - ②浜田市が野原地区(浜田キャンパス所在地)や浜田市中心部に「避難指示(警戒レベル4)」または「緊急安全確保(警戒レベル5)」を発令した場合。
 - ③石見交通(大学線)が運休する場合。ただし、交通事故による運休は休講としない。
 - ④浜田市において、「震度5強」以上の地震が発生した場合、又は「震度5弱」であっても大学の施設・設備に大きな被害が出ている場合。
- ※この場合は、当日又は翌日の授業等を休講とする。

この他の緊急事態が発生し、授業等の実施に支障があると認められる場合は、休講となることもありますので、大学からの案内を確認するようにしてください。

なお、「休講となる場合」「授業を行う場合」はそれぞれ次のとおりです。

■ 1・2限の授業について

午前7時時点で上記①～③が発生している場合・・・1～2限休講

午前7時時点で上記①～③が解除された場合・・・1～2限授業

■ 3～6限の授業について

午前11時時点で上記①～③が発生している場合・・・3～6限休講

午前11時時点で上記①～③が解除された場合・・・3～6限授業

※④が発生した場合の授業の休講と再開については、大学からの指示に従ってください。

確認は自分で気象庁の発表する気象情報や各種HP等により確認してください。休講となった授業科目については、後日補講を実施しますので、担当教員からの指示や学生情報システム（UNIPA）を確認するようにしてください。

4 単位数と授業時間数

各授業科目には単位数が定められています。単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを原則とし、授業方法に応じて次の基準により計算しています。

① 講義及び演習.....15時間の授業をもって1単位とします。

② 実習及び実技.....30時間の授業をもって1単位とします。

文部科学省が定める大学設置基準により、2単位を修得するためには、授業時間90分（2時間とみなす）＋授業外学修時間（予習90分＋復習90分→各2時間とみなす）の合計6時間の学修を15週にわたって学修する必要があります。すなわち学期中に90時間の学修をもって2単位を修得するということになります。ここで言う「学修時間」とは「授業時間」と「授業外学修時間」を合わせた時間で単に習得の目安です。単位修得にはこの定められた学修時間をこなすことが前提となります。授業科目のうち、ほとんどの講義科目・演習科目は2単位科目ですが、これは、1回1コマの授業が15週にわたって行われることから、2時間×15週＝30時間の授業をもって2単位としているものです。

講義科目（2単位）の単位を修得するには、この「30時間の授業」に加えて、授業外学修時間として「60時間の自習」が必要ということですので、授業だけ出席していれば良いというわけではありません。先生方が課題を課すというのは、この授業外学修時間のために「課題を課す」ということとなります。

5 試 験

(1) 試験

授業科目を履修し、その試験に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

①試験は、学期末に期間を定めて実施します。ただし、担当教員が必要と認めるときには、随時試験を行い、この結果をもって成績評価を行うことがあります。

②試験の時間割等は、学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」等により周知します。

(2) 受験資格

次に該当する場合は、試験を受けることができませんので、注意してください。

① 履修登録をしていない科目

② 履修登録した科目で出席時間数が全時間数の3分の2に満たない科目

(3) 受験にあたっての注意事項

- ① 試験時間までには入室し、着席しておくこと。
- ② 学生証を必ず持参し、机の上に提示すること。忘れた場合は、事務局1階事務室（学務課教務係）で仮学生証の交付を受けること。
- ③ 筆記用具、学生証及び教員が認めたもの以外は机の上に置かないこと。
- ④ 必要のないノートや書籍、筆箱などは鞆等の中に入れること。
- ⑤ 携帯電話は退室まで電源を切って鞆にしまうこと。
- ⑥ 時計（時計型端末含む）は退室まで鞆等の中にしまうこと。
- ⑦ 遅刻は30分まで認めるが、遅刻しないよう注意すること。
- ⑧ 試験開始後、30分を経過しないと退室できません。
- ⑨ 終了の合図があったら直ちに筆記用具を置いて答案を提出すること。
- ⑩ 試験を受けた場合は、答案用紙を持ち帰らないこと。持ち帰った場合は不正行為とみなします。

※万が一、不正行為があった場合には、当該授業科目の履修が無効となるほか、学則第49条の規定及び「島根県立大学における学生の懲戒に関する規程」に基づき懲戒（退学・停学・）処分となります。試験中は、不正行為はもちろんのこと、紛らわしい行為もしないように注意してください。

(4) 追試験

次の理由により、試験を受けることができなかった場合には、当該科目の試験終了後7日以内に、欠席の理由を明らかにした証明書等を添付のうえ、追試験願を本部棟1階事務室（学務課教務係）に提出し、学長の許可を得て追試験を受けることができます。

- ① 疾病（⇒医師の診断書が必要）
- ② 忌引き（⇒会葬礼状等の写しが必要）
- ③ 交通機関の突発事故（⇒事故証明書等が必要）
- ④ 突発的な災害等
- ⑤ 裁判員制度に基づき、裁判員に選任され、これを受諾したことにより、裁判に参加

することが必要となった場合

- ⑥ 日本骨髄バンクのドナー又はドナー候補者として、検査、入院、健康診断などを行う場合（⇒公益財団法人日本骨髄バンクが作成する書類が必要）

(5) 【4年生以上のみ対象】就職活動と学期末試験が重複した場合

就職活動のために学期末試験を受けることができなかった場合は、以下に該当する場合のみ追試験の対象となります。就職活動のために授業を欠席する場合と同様、**調整ができる場合には学期末試験を最優先**してください。

- ①企業等の指定する日時に選考試験（面接を含む）を受ける場合。
- ②企業等の指定する日時に当該企業等を訪問又は当該企業が開催する説明会に参加する場合。
- ③内定企業から呼び出しを受けた場合は、①②に準じて取り扱うものとする。

ただし、学期末試験と重複しない日時を選択できる余地がある場合は、選考試験や説明会等の日時調整をすること。調整可能であるにもかかわらず、選考や説明会等に参加して試験を欠席した場合は、追試験を認めない。

どうしても調整できず学期末試験を欠席する場合には、原則として、欠席後7日以内に科目ごとの「就職活動による欠席届」を授業担当教員に提出してください。なお、「就職活動による欠席届」を提出する際には就職活動の内容（日時、場所、活動内容）を明らかにして、本部棟1階事務室（学務課・キャリア担当）の確認を受けてください。

さらに、当該科目の試験終了後7日以内に、「就職活動による欠席届」（学務課・キャリア担当の確認を受けたもの）の写しを添付の上、「追試験願」を本部棟1階事務室（学務課教務係）まで提出してください。

(6) 再試験（卒業年次生のみ対象）

試験の結果が「不可」となった場合に、なお当該科目の単位を修得したいときは、次年度以降に再履修しなければなりません。ただし、卒業する学期においてやむを得ない事情があると認められる場合には、再試験を行うことがあります。

再試験は4単位を上限に受験が認められます。

なお、再試験を行って単位が修得できた場合の評価は「可」のみです。

「放棄」となった科目は再試験の対象にはなりません。

(7) 異常気象及び自然災害等発生時の試験の取扱い

取扱いについては、「3 授業 (5) 異常気象及び自然災害等発生時の授業の取扱い」と同じです。その他の取扱いについて指示する場合がありますので、学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」には常に注意をしてください。

6 成績評価

(1) 成績評価

- ① 成績の評価は、試験の結果ばかりでなく、論文・レポート・出席状況等により科目担当教員が総合的に判断します。
- ② 成績評価は、秀、優、良、可又は不可をもって表し、このうち、秀、優、良及び可を合格とします。
 - 「秀」 …… 90 点以上
 - 「優」 …… 80 点以上 90 点未満
 - 「良」 …… 70 点以上 80 点未満
 - 「可」 …… 60 点以上 70 点未満
 - 「不可」 …… 60 点未満
- ③ 履修登録をしながら、例えば「試験を受けない」、「出席日数が足りない」、「レポートを提出しない」などの履修状況により担当教員が成績評価の対象とならないと判断した場合は「放棄」とし、成績評価を行いません。
学生が履修登録した科目を放棄する意味ではありません。
- ④ 「不可」「放棄」とされた科目の単位も、年間の履修登録制限単位数（40単位）に含まれますので、注意してください。
- ⑤ 担当教員が成績発表までに評価を一時的に保留する場合がありますが、この場合は、成績通知書等には「保留」と表示されます。なお、成績が確定次第、いずれかの評価に変更となります。

(2) GPA

GPA (Grade Point Average) とは、学期及び累積の成績を以下の計算式で数値化し、教育の質の向上を図る制度です。成績表に表示される GPA を意識して、修学に励むよう心がけてください。

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

※ 「総履修登録単位数」には、「不可」や「放棄」となった科目の単位数も含まれます。

(3) 不服申立

履修した科目の成績評価に関し、質問や疑問がある場合は、その科目を履修した学期の成績発表後1ヶ月以内に、担当教員に対して説明を求めることができます。さらに、担当教員の説明に不服がある場合は、成績評価に対する不服申立てを行うことができます。

7 学生による授業アンケートの実施について

本学では、授業をより充実したものとすることを目的に、学生による授業アンケートを実施しています。アンケートは学生情報システム（UNIPA）で実施します。学期末に学内メール等で案内されますので、履修した科目について回答してください。

8 オフィスアワー

オフィスアワーは、学生の皆さんが学業や学校生活全般に関する質問や相談、あるいは個人的な指導等を受けるための時間であり、全専任教員が設定しています。

オフィスアワーの時間帯は教員毎に設定されています。学期始めに学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」に掲載しますので、各自よく確認をして、指示に従ってください。この時間帯以外の教員研究室の訪問を制限するものではありませんが、講義・会議等で不在の場合もありますので、なるべくオフィスアワーを活用してください。なお、できるだけ事前に教員に予約を取り訪問していただくことをお勧めします。

Ⅱ 単位互換・単位認定について

1 単位互換

(1) 他学部の授業科目の履修について

本学の看護栄養学部、人間文化学部が開講する授業科目の履修を希望する場合は、学務課教務係にご相談ください。授業科目の担当教員の許可を得て、履修を認めることがあります。

(2) 他の大学等における授業科目の履修について

所定の手続きをすることで、本学以外の大学等の授業科目を履修することができます。また、本学では下記の大学等と単位互換協定を締結しており、次のとおり制度を運用しています。

<島根大学>

派遣できる学部	医学部を除く全学部
履修科目	島根大学が指定する授業科目のうち、本学が有益と認める科目
履修期間	1年以内
履修申込申請締切	春学期・・・前年度の1月末 秋学期・・・当該年度の6月末
その他	①島根大学での授業料の負担はありません。 ②通学に要する経費は自己負担となります。

<放送大学>

派遣できる学部	教養学部
履修科目	放送大学が指定する授業科目のうち、本学が有益と認める科目
履修期間	1学期ごと
履修申込申請締切	前期（4月～7月）・・・前年度の1月末 後期（10月～1月）・・・当該年度の6月末
その他	①授業料等の負担あり。 ②通学に要する経費は自己負担となります。

<教育ネットワーク中国>

履修科目	教育ネットワーク中国と協定を締結している大学が提供している科目
履修期間	1年以内
履修申込申請締切	各大学が定めている申込申請期限
その他	①授業料の負担はありません。 ②通学に要する経費等は自己負担となります。 ※詳細は、教育ネットワーク中国のホームページ（「単位互換事業」のページ）を参考にしてください。 URL http://www.enica.jp/

(3) 注意事項

- ①上記の単位互換協定を締結している大学等の他にも、「科目等履修生」を募集している大学等であれば、履修して単位を認定することができます。ただし、この場合は、各大学が定める入学検定料、入学料、授業料などの納付が必要となる場合があります。
- ②各大学等で定められた期日までに申請を行う必要がありますが、それまでに本学で所定の手続きを経る必要があります。本学以外の大学等の授業科目の履修を希望する場合は、申込期日の2か月前までに、事務局学務課教務係まで申し出てください。
- ③他の大学等で履修する場合、その単位は、年間履修上限単位数の枠の中に含まれます。
- ④他学部または他の大学等で履修した科目は、「島根県立大学国際関係学部・地域政策学部他の大学等における履修等に関する規程」に基づき単位認定を行います。詳細は、同規程を確認してください。
- ⑤他の大学等で履修した科目の単位認定の上限は、30 単位です。
- ⑥上記の他詳細については、事務局学務課教務係にお問い合わせください。

2 海外留学による単位認定

協定留学及び認定留学で修得した単位は、「島根県立大学国際関係学部・地域政策学部他の大学等における履修等に関する規程」に基づき単位認定を行います。

ただし、海外留学による単位認定については下記の点に注意してください。

- ①一部の科目を除き、留学中は本学の科目を履修することはできません。
- ②これまでの単位修得状況などにより、単位認定の手続きを行っても卒業要件単位として認定することができない場合があります（その場合、要件外（自由科目）として認定されます）。
- ③海外の大学で履修する場合も、その単位は、年間履修上限単位数の枠の中に含まれます。
- ④単位認定は帰国後に手続きを行いますので、事前に認定内容を確認することはできません。
- ⑤学則第 25 条に規定する留学の単位認定の上限は、40 単位です。1 年を超える留学の場合は、60 単位を上限に認定することができます。

この他、海外留学における単位認定についての詳細は、学務課教務係にご相談ください。

3 資格試験による単位認定

TOEICなどの外国語能力試験の成績等により、以下4つの場合に、本学で開設している科目としての単位認定を受けることができます。詳細は学務課教務係までお問い合わせください。なお、資格試験による単位認定を受ける場合、その単位は履修上限単位数には含みません。

(1) 留学をした学生

本学在学又は休学中に英語圏、中国語圏、韓国語圏、又はロシア語圏の国における教育施設等において本学の1セメスターに相当する期間以上学修した場合

1-1 英語

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
①TOEIC ②TOEFL-ITP ③TOEFL-iBT	①430～515点 ②400～449点 ③ 32～ 44点	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1セメスター以上	2単位まで	可
			2セメスター以上	4単位まで	
	①520～645点 ②450～475点 ③ 45～ 52点	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1セメスター以上	2単位まで	良
		英字新聞リーディング 英語アカデミックリーディング	2セメスター以上	4単位まで	
	①650～695点 ②476～485点 ③ 53～55点	海外英語研修	1セメスター以上	2単位まで	優
			2セメスター以上	4単位まで	
	①700点以上 ②486点以上 ③56点以上		1セメスター以上	2単位まで	秀
			2セメスター以上	4単位まで	

注1 TOEICとは、Test of English for International Communicationの略で、アメリカ合衆国の法人であるETS (Educational Testing Service)が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。(別表2、一 英語において同じ)

(1) TOEIC 公開試験

(2) TOEIC IP試験(本学を試験会場として実施するもの)

注2 TOEFLとは、Test of English as a Foreign Languageの略で、アメリカ合衆国の法人であるETS (Educational Testing Service)が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。

(1) TOEFL-ITP(本学を試験会場として実施するもの)

(2) TOEFL-iBT(インターネット版TOEFL)

注3 海外における学修期間に記すセメスターとは、本学におけるセメスターに相当すると認められるものとする。

注4 成績評価は、上表のTOEICまたはTOEFLの成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

注5 単位認定を申請する予定が有る者は、留学前に「海外英語研修」の担当教員と面談して指導を受け、留学後に学習成果を発表する必要がある。

注6 編入学生については、令和5年度(2023年度)入学生より本表を適用する。

1-2 中国語 孔子学院総部／国家漢弁が実施している漢語水平考試

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
漢語水平考試 (筆記試験) 4級	180点-194点	中国語Ⅰ	1 Semester以上	6単位まで	可
		中国語Ⅱ	2 Semester以上	12単位まで	
	195点-209点	中国語コミュニケーションⅠ	1 Semester以上	6単位まで	良
		中国語コミュニケーションⅡ	2 Semester以上	12単位まで	
	210点以上	中国語読解Ⅰ	1 Semester以上	6単位まで	優
		中国語読解Ⅱ	2 Semester以上	12単位まで	
海外中国語研修					
実践中国語Ⅰ 実践中国語Ⅱ					
漢語水平考試 (筆記試験) 5級、6級	180点以上	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 Semester以上	6単位まで	秀
		中国語コミュニケーションⅠ 中国語コミュニケーションⅡ 中国語読解Ⅰ 中国語読解Ⅱ 海外中国語研修 実践中国語Ⅰ 実践中国語Ⅱ	2 Semester以上	12単位まで	

注1 「漢語水平考試(筆記試験)」とは、中国の孔子学院総部／国家漢弁が主催し、実施する中国語を母国語としない中国語学習者のための公認の中国語能力認定標準化国家試験のことである。日本において、社団法人日本青少年育成協会の後援のもとで、HSK日本実施委員会(HSK日本事務局)が実施する漢語水平考試(筆記試験)を含むものとする。

注2 海外における学修期間に記されるSemesterとは、本学におけるSemesterに相当すると認められるものとする。

注3 成績評価は、上表の漢語水平考試の成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

(2) 英語科目のうち必修であるものの再履修者（※）

試験種別	成績等	認定授業科目(全て2単位科目)	認定単位数	評価
TOEIC	350～395点	英語Ⅰ	2単位まで	可
	400～445点	英語Ⅱ	4単位まで	
	450～495点	英語Ⅰ 英語Ⅱ	6単位まで	
	500点以上	英語アカデミックリーディング(国際関係コースのみ) 英語コミュニケーションⅠ(国際コミュニケーションコースのみ) 英語コミュニケーションⅡ(国際コミュニケーションコースのみ)	8単位まで	

注1 再履修者*については、再履修した科目について成績評価を受けた場合のみ認定の対象とする。再々履修者及び編入学生の再履修者についてはこの限りではない。

(※) 再履修者とは

「再履修をした結果、成績評価が「不可」となった者」をいいます。再履修の登録をおこなっても、成績が「放棄」となった者は対象となりません。

(3) 英語科目のうち TOEIC の点数を到達目標として掲げている科目について「不可」の評価を受けた者

試験種別	成績等	ビジネス英語 入門Ⅰ	ビジネス英語 入門Ⅱ	ビジネス英語 Ⅰ	ビジネス英語 Ⅱ	
TOEIC	400～450点	可	—	—	—	
	451～500点	良	可			
	501～550点	優	良	可		
	551～600点	秀	優	良		可
	601～650点		秀	優		良
	651～700点			秀		優
	701点以上			秀		秀

Ⅲ 転学部・転コースについて

1 転学部について

転学部の選考は、原則として欠員のある場合に限ります。また、転学部を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りませんし、卒業要件が異なるため、修得済みの単位の扱いも変わってきます。諸事情により転学部を希望する場合は、コースの演習（ゼミ）担当教員等に相談してください。

【転学部選考の大まかな流れ】

- ①10月末日までに各学部の選考方法等をお知らせ。
→毎年度選考が実施されるとは限りません。
- ②12/1～12/22までに転学部を志望する者は転学部願を提出。
→事前に学部長が指定する教員またはコース長と相談のこと。
※詳しい事前相談の手続きは、転学部先のコースごとに異なります。
詳しくは、転学部先のコースの「学生募集要項」を参照してください。
- ③選考は志望の理由、入学試験の成績、学業成績、面接、口頭試験、小論文、筆記試験、実技検査等を組み合わせて総合的に判定し、教授会の議を経て、受入れの可否を決定（2月末日までに）。
※ただし、選考方法は、転学部先のコースによって異なります。
- ④転学部を許可された者は年度当初の4月から新学部の所属とし、配属年次は既修得単位等に基づき決定。

2 転コースについて

諸事情により転コースを希望する場合は、コースの演習（ゼミ）担当教員等に相談してください。コースの変更を希望する場合は、所属するコースのコース長の許可が必要となります。

【転コース選考の大まかな流れ】

- ①10月末日までに各学部の選考方法等をお知らせ。
→毎年度選考が実施されるとは限りません。
- ②12/1～12/22までに転コースを志望する者は転コース願を提出。
→事前に学部長が指定する教員またはコース長と相談のこと。
※詳しい事前相談の手続きは、転コース先のコースごとに異なります。
詳しくは、転コース先のコースの「学生募集要項」を参照してください。
- ③選考は志望の理由、入学試験の成績、学業成績、面接、口頭試験、小論文、筆記試験等を組み合わせて総合的に判定し、教授会の議を経て、受入れの可否を決定（2月末日までに）。
※ただし、選考方法は、転コース先のコースによって異なります。
- ④転コースを許可された者は年度当初の4月から新コースの所属とし、配属年次は既修得単位等に基づき決定される。

IV 本学大学院への進学について

本学大学院では、2009年4月より「北東アジア開発研究科」を設置しています。

学部生の皆さんに係る本学大学院に関する制度は次のとおりです。大学院進学に関心のある方は気軽に学務課教務係を尋ねてください。

◆大学院科目早期履修制度

- ・学部在籍中に、大学院の授業を履修できる制度です。本学大学院に進学した場合、この制度を利用して修得した単位を大学院の単位として認定できます。
- ・3年次以上に在籍している学生で、履修希望科目担当教員の下承及び学部の指導教員の同意が必要となります。
- ・この制度を利用して大学院の授業を履修するために、別途、検定料や授業料は必要ありません。
- ・詳しくは、学務課教務係までお問い合わせください。

◆大学院スキル科目の履修制度

- ・北東アジア地域言語の読解力や情報解析のスキルに磨きをかけたい学部生が、大学院のスキル科目（国際言語演習科目、情報解析科目）を履修できる制度です。
- ・学部の成績通知表に大学院科目の単位を修得したことを記載することで、就職活動時に情報解析や語学に秀でた能力を有することを企業の採用担当者に印象づけることができます。
- ・3年次以上に在籍している学生が対象となります。
- ・大学院の授業科目を履修するための授業料は別途必要としません。
- ・修得した単位は、学部の自由単位として認定を受けるのか、大学院進学後の単位として認定を受けるのかを申請時点で選択できることとします。なお、申請時点で進路を明確に決めていない場合は、単位の認定を保留し、結果として大学院に進学する場合は大学院進学後に、進学しない場合は4年次の秋学期までに単位を認定することとします。
- ・詳しくは、学務課教務係までお問い合わせください。

◆大学3年次生対象特別選抜（飛び級入試）制度

- ・大学院進学を希望する学生のうち、成績優秀者は、学部3年次を終了した後、大学院に飛び級進学することができます。
- ・本来であれば、学部と大学院を併せて6年の学修が必要なところを、本制度を利用すれば5年の学修で修士の学位を修得することができます。
- ・学士の資格は授与されないことに注意が必要です。すなわち、大学院を修了すれば最終学歴は「大学院卒」となりますが、中退した場合は「高校卒」となります。
- ・成績要件や選抜試験の実施方法など、詳しくは学務課教務係までお問い合わせください。

◆推薦入学制度

- ・学部の成績において「秀」と「優」の取得率が概ね70%以上あると、推薦入学の対象となります。推薦入学では、小論文試験と面接試験が課されます。

V 国際関係学部のカリキュラム

1 教育目標

(1) 教育研究上の目的

本学部では、次のとおり「教育研究上の目的」を掲げています。

国際関係学部国際関係学科
環日本海に位置する本学の地理的条件を活かして、世界に開かれた地域社会の実現と国際社会の平和的発展に寄与する教育研究を推進するとともに、多文化共生や地球規模の諸課題に対する深い洞察力を備え、多様な世界観が併存する北東アジアをはじめとする国際社会に平和と安定をもたらすために尽力する人材を育成し、その成果を広く社会に還元することを目的とする。

(2) 養成する人材像

本学部における「養成する人材像」は、次のとおりです。

国際関係学部国際関係学科
国際社会の平和的発展に寄与するために、グローバルな視野と国際問題への関心を育み、高度な専門的知識を持って、北東アジアをはじめとする国際社会と日本との共生を目指して活躍する人材を育成する。
国際関係コース
北東アジアをはじめとするアジア地域の政治経済、社会動向、文化と日本との歴史的・現代的つながりを政治学・国際関係学・地域研究を基軸として専門的に学び、確かな外国語活用能力を駆使しつつ、自らの問題関心をグローバルな視点から分析し、多文化共生のための知恵を編み出せる人材を育成する。
国際コミュニケーションコース
北東アジアをはじめとする国々の言語や文化・社会等に関する理解、および言語学・コミュニケーション学についての知識を基礎とし、英語や北東アジア地域諸国の言語を活用して、自らの考えを積極的に発信するとともに、国籍や民族などの異なる他者の価値観についても受容できる、偏見のない豊かな多文化共生社会の構築に寄与できる人材を育成する。

2 教育方針

(1) ディプロマ・ポリシー

本学部の教育目標に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマ・ポリシー」といいます。

学生の学修成果の目標となるものであり、本学部では、次のとおり「ディプロマ・ポリシー」を掲げています。

国際関係学部国際関係学科

国際関係学部国際関係学科は、環日本海に位置する本学の地理的条件を活かして、多文化共生や地球規模の諸課題に対する深い洞察力を育成し、もって世界に開かれた地域社会の実現と国際社会の平和的発展に寄与することを理念とします。この理念の下、多様な世界観が併存する北東アジアをはじめとする国際社会に平和と安定をもたらすために尽力する人材の育成を教育目標とします。

島根県立大学のディプロマ・ポリシーの下、国際関係学部国際関係学科では、この理念と教育目標に定める人材を育成するために、定められた年限在学して所定の単位を修得し、国際関係学部国際関係学科において定める専門分野に関する以下の能力を有すると認められた学生に学士（国際関係学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1)社会科学・人文学の諸科学における国際関係あるいは多文化コミュニケーションに関わる専門的知見を体系的に理解することができる。
- (2)グローバル化に伴い、複雑に展開する国内外の問題を、社会科学・人文学の学術的観点からの確に理解することができる。

2. 思考・判断

- (1)多文化共生や地球規模の諸課題の解決策を構想できる。
- (2)グローバル化した国内外の多文化社会における複雑化した問題について、政治経済・社会動向・歴史・文化に関わる知識を手がかりにして分析的に探求できる。

3. 態度・実践

異質な意見を持つ多彩な他者とも対話・協働し、異文化への共感力を養い、能動的に合意形成を試みる姿勢を身につけている。

4. 技能・技術

- (1)多文化共生や地球規模の諸課題について、適切な学術的方法や専門的視角に基づいて調査、分析、研究を行い、その成果について、他者にわかりやすく論理的に説明することができる。
- (2)英語や北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）をコミュニケーション・ツールにして情報発信する外国語活用能力を身につけている。

(2) カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラム・ポリシー」といいます。

本学部では、次のとおり「カリキュラム・ポリシー」を掲げています。

国際関係学部国際関係学科
<p>島根県立大学のカリキュラム・ポリシーの下、国際関係学部国際関係学科は、教育研究上の目的及び学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、基礎教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。</p>
<p>教育課程編成の考え方</p> <p>(1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、幅広い教養教育を通じて「島根県立大学憲章」が謳う豊かな人間性と高い倫理観を涵養するために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修するとともに、情報・統計処理の基礎を学ぶ「情報・統計科目」を履修します。</p> <p>(2) 「基礎教養科目群」に「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を履修します。</p> <p>(3) 初年次教育の柱として、大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、「アカデミック・ライティング」（国際関係コース）、「スタディスキル」（国際コミュニケーションコース）を必修とします。</p> <p>(4) 専門的知見修得の基盤となる知識を身につけるために、1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を体系的に履修します。</p> <p>(5) 専門的知識について基礎から応用へと体系的に発展・高度化させて学修するために、2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目から所定の単位を履修します。</p> <p>(6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・分析・研究を遂行します。</p> <p>(7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。</p>
<p>学習内容及び学習方法</p> <ul style="list-style-type: none">・教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。・英語や北東アジア言語の実践的な運用能力および多彩な他者と共感する姿勢やコミュニケーションを図る態度を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。・能動的・主体的に学修する態度を涵養するために、すべての学年で演習などの少人数教育を履修します。専門教育の学習効果を高める演習科目として、基礎演習

と専門演習を段階的に配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。

学修成果の評価方法

- ・学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できているのかという観点から定めます。
- ・試験による評価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平素の授業理解を確認するリアクション・ペーパーなどを科目の性質に応じて組み合わせを行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。
- ・中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

3 コース制

本学部は、1学科2コースにより構成されており、基本的には、入学時点で在籍するコースにおいて4年間学修し、所定の科目を履修します。

学科名	コース名
国際関係学科	国際関係コース
	国際コミュニケーションコース

4 卒業認定と学位について

本学に4年以上在学（＝在学要件）し、所定の授業科目を履修し、かつ、卒業に必要な総単位数124単位以上（必修科目、選択必修科目及び選択科目の合計）を修得（＝単位要件）すれば卒業が認定されます。

卒業が認定された場合、以下の学位を取得します。

学部	学科	コース	学位
国際関係学部 【Faculty of International Relations】	国際関係学科 【Department of International Relations】	国際関係コース	学士（国際関係学） 【Bachelor of International Relations】
		国際コミュニケーションコース	

VI 国際関係コース

1 国際関係コース教育方針（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー）

ディ プロ マ ・ ポ リ シ ー	<p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 社会科学の中でも、とくに政治学、国際関係学、北東アジア地域研究の専門的知識を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 北東アジアをはじめとした国際社会におけるグローバル化の潮流と、グローバル化に伴う複雑な社会的事象や国内外の課題を、学際的観点からの確に把握することができる。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>(1) 多文化共生や地球規模の諸課題について、錯綜する利害関係者の価値基準や優先順位を整理して課題解決に導く方策を構想する力を身につけている。</p> <p>(2) 北東アジアをはじめ、グローバル化した国際社会及び国内社会の複雑化した問題について、政治経済・社会動向・歴史・文化に関わる知識を手がかりにして分析的に探究できる。</p> <p>3. 態度・実践</p> <p>異質な意見を持つ多彩な他者とも対話・協働し、異文化に共感し、能動的に合意形成を試みる姿勢を身につけている。</p> <p>4. 技能・技術</p> <p>(1) 多文化共生や地球規模の諸課題について、適切な学術的方法や専門的視角に基づいて調査、分析、研究を行い、その成果について、他者にわかりやすく論理的に説明することができる。</p> <p>(2) 英語や北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を多文化共生・異文化理解のツールとして活用する能力を身につけている。</p>
--	--

教育課程編成の考え方

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、豊かな人間性と高い倫理観に基づいて国際社会の平和的発展を希求し、多文化共生の知恵を編み出す知的素地を培うために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修します。また、情報・統計処理の基礎を学修するために、「情報・統計科目」を履修します。
- (2) アカデミックな外国語活用能力の基盤を修得するために、「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を履修します。
- (3) 大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、初年次教育の効果を高めるべく、少人数ゼミの「アカデミック・ライティング」を必修とし、専門基礎科目との学修上の連携を図ります。
- (4) 1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を順次性に従い体系的に履修することで、北東アジアをはじめとした国際社会におけるグローバル化の潮流と、グローバル化に伴う複雑な社会的事象や国内外の課題について学修します。
- (5) 2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」の選択科目から所定の単位を履修し、北東アジアをはじめとする世界の政治経済・社会動向・歴史・文化に関わる専門的知識について学修します。
- (6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

学習内容及び学習方法

- (1) 教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- (2) 能動的・主体的に学修する態度を涵養し、異質な意見を持つ多彩な他者とも対話・協働して合意形成を試みる姿勢を身につけるために、すべての学年で演習などの少人数教育を履修します。専門教育科目として1年次後期と2年次前期に基礎演習、2年次後期、3・4年次に専門演習を配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。

2 国際関係コースの教育課程の構成と卒業要件

国際関係コースの教育課程及び卒業要件の概要は、以下のとおりです。留学生は次項の留学生用の別表が適用されます。

区分	必修	選択 必修	選択	区分 計	備考	
基礎教養科目群	6	4	20	30		
一般教養科目	-	-	20	30	【必修】「英語Ⅰ・Ⅱ」 【選択必修】「●●語Ⅰ・Ⅱ」 【必修】キャリアプランニング	
語学・多文化理解科目	4	4				
キャリア科目	2	-				
専門基礎科目群	20	4	14	38		
国際関係学科共通科目	6	-	14	38	【必修】「多文化共生論入門」「国際文化論」「地域研究方法論」	
国際関係コース科目	10	-			【必修】「国際関係概論」「政治学概論」「政治学」「北東アジア関係概論」「国際政治学」	
国際コミュニケーションコース科目	2	4			-	【必修】「英語アカデミックリーディング」 【選択必修】「●●語読解Ⅰ・Ⅱ」
演習科目	2	-			-	【必修】「アカデミック・ライティング」
専門科目群	14	0	28	42		
国際関係コース科目	-	-	28	42	【必修】「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際関係専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」	
国際コミュニケーションコース科目	-	-	-			
演習科目	14	-	-			
自由選択科目	-	-	10	10	①国際コミュニケーションコース科目の選択科目、②各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、③地域政策学部科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目	
卒業研究	4	-	-	4		
計	44	8	72	124		

※●●語＝中国語、韓国語、ロシア語

※自由選択科目の要件単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な124単位に含まれない「要件外（自由科目）」の単位として算入されます。

(留学生用)

区分	必修	選択 必修	選択	区分 計	備考
基礎教養科目群	6	8	16	30	
一般教養科目	-	-			
語学・多文化理解科目	4	8	16		【必修】「英語Ⅰ・Ⅱ」 【選択必修】「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」指定
キャリア科目	2	-			【必修】キャリアプランニング
専門基礎科目群	20	0	18	38	
国際関係学科共通科目	6	-			【必修】「多文化共生論入門」「国際文化論」「地域研究方法論」
国際関係コース科目	10	-	14		【必修】「国際関係概論」「政治学概論」「政治学」「北東アジア関係概論」「国際政治学」
国際コミュニケーションコース科目	2	-	4		【必修】「英語アカデミックリーディング」
演習科目	2	-	-		【必修】「アカデミック・ライティング」
専門科目群	14	0	28	42	
国際関係コース科目	-	-	28		
国際コミュニケーションコース科目	-	-	-		
演習科目	14	-	-		【必修】「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際関係専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」
自由選択科目	-	-	10	10	①国際コミュニケーションコース科目の選択科目、②各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、③地域政策学部科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目
卒業研究	4	-	-	4	
計	44	8	72	124	

※留学生が、基礎教養科目群の北東アジア言語科目（海外中国語研修、海外韓国語研修、海外ロシア語研修を除く）を履修した場合は自由選択科目とし、専門基礎科目群の北東アジア言語科目を履修した場合は、選択科目とする。ただし、ダブルディグリー生については別途定める。

3 国際関係コースの英語及び北東アジア言語の履修について

基礎教養科目群、専門基礎科目群（国際コミュニケーションコース科目）、専門科目群（国際コミュニケーションコース科目）に、それぞれ「英語科目」「北東アジア言語科目」が配置されています。

履修にあたっては、以下の内容について十分確認してください。

(1) 英語科目

① 必修科目の履修

次の科目は必修科目です。配当年次に履修するよう心掛けてください。

科目区分	科目名	配当年次	単位数
基礎教養科目群	英語Ⅰ	1年春学期	2
	英語Ⅱ	1年秋学期	2
専門基礎科目群	英語アカデミック リーディング	2年秋学期	2

② 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」のクラス編成及び授業時間について

「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」については、入学時に実施する TOEIC 試験の成績によりクラス編成を行います。クラス編成は、学生情報システム（UNIPA）でお知らせしますので、配布された時間割表で指定されたクラス、教員のコマ及び教室を確認し、授業に出席してください。期限内に TOEIC を受験しなかった場合、「英語Ⅱ」を履修することはできません。

また、「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」の授業は前半クラス・後半クラスに分けて、1回45分の授業を週2回行いますので、注意してください。

第1時限	8:55～9:40（前半）	9:45～10:30（後半）
第2時限	10:35～11:20（前半）	11:25～12:10（後半）
第3時限	13:05～13:50（前半）	13:55～14:40（後半）
第4時限	14:45～15:30（前半）	15:35～16:20（後半）
第5時限	16:25～17:10（前半）	17:15～18:00（後半）
第6時限	※該当科目なし	

(2) 北東アジア言語科目

① 選択必修科目の履修

北東アジア言語科目は選択必修科目です。「中国語」「韓国語」「ロシア語」のいずれかのうち最低1言語を選択し、配当年次に履修するよう心掛けてください。

基本的には、学生の希望する言語（科目）を履修します。

科目区分	科目名	配当年次	単位数	卒業要件
基礎教養科目群	中国語Ⅰ	1年春学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語Ⅰ	1年春学期	2	
	ロシア語Ⅰ	1年春学期	2	
	中国語Ⅱ	1年秋学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語Ⅱ	1年秋学期	2	
	ロシア語Ⅱ	1年秋学期	2	
専門基礎科目群	中国語読解Ⅰ	2年春学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語読解Ⅰ	2年春学期	2	
	ロシア語読解Ⅰ	2年春学期	2	
	中国語読解Ⅱ	2年秋学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語読解Ⅱ	2年秋学期	2	
	ロシア語読解Ⅱ	2年秋学期	2	

② 「中国語」「韓国語」「ロシア語」のクラス編成及び授業時間について

基礎教養科目群の北東アジア言語科目（中国語、韓国語及びロシア語のⅠ・Ⅱ）のクラス編成は、学生情報システム（UNIPA）でお知らせします。

③ 「日本語」の履修（留学生のみ）【計8単位】

留学生の皆さんは「日本語Ⅰ～Ⅳ」を、北東アジア言語科目の必修科目として履修します。留学生の皆さんが「日本語」に加えて他の北東アジア言語を履修する場合は、母国語を除き、選択科目の単位として取り扱います。

4 国際関係コース指定の必修科目（英語科目を除く）について

次の科目は必修科目です。配当年次に履修するよう心掛けてください。

科目区分	科目名	配当年次	単位数	備考
基礎教養科目群	キャリアプランニング	2年秋学期	2	浜田C共通科目
専門基礎科目群	多文化共生論入門	1年春学期	2	国際関係学科 共通科目
	国際文化論	2年春学期	2	
	地域研究方法論	2年春学期	2	
専門基礎科目群	国際関係概論	1年秋学期	2	国際関係コース 科目
	政治学概論	1年春学期	2	
	政治学	2年秋学期	2	
	北東アジア関係概論	1年秋学期	2	
	国際政治学	2年秋学期	2	

5 国際関係コースの演習科目の履修について

国際関係学部国際関係学科国際関係コースでは、1年次から4年次まで、コースの特色を活かした少人数単位の教育を通じて、初歩的なアカデミック・スキルから高度な専門知識とその応用方法に至る学識を習得することを目的に、学部の専任教員が役割を分担しながら、演習形式で以下の授業を行います。

演習科目では、演習（ゼミ）担当教員ごとのクラスに分かれて履修します。

科目区分	科目名	配当年次	単位数
専門基礎科目群	アカデミック・ライティング	1年春学期	2
専門科目群	基礎演習Ⅰ	1年秋学期	2
	基礎演習Ⅱ	2年春学期	2
	国際関係専門演習Ⅰ	2年秋学期	2
	国際関係専門演習Ⅱ	3年春学期	2
	国際関係専門演習Ⅲ	3年秋学期	2
	国際関係専門演習Ⅳ	4年春学期	2
	国際関係専門演習Ⅴ	4年秋学期	2

(1) 「アカデミック・ライティング」

- ① 「アカデミック・ライティング」とは、大学初年次生が、大学教育レベルのアカデミック・スキルを学び、特に社会科学の文書作成やレポート作成に必要なスキルを修得することを目的とした科目です。
- ② 「アカデミック・ライティング」のクラス分け
「アカデミック・ライティング」は、大学が予め指定をしたクラスにおいて履修をします。クラス分けについての説明は1年生向けオリエンテーションで行います。

(2) 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」

- ① 「基礎演習」とは
専門科目として「基礎演習」を配置し、必修科目に指定します。
「基礎演習」は英語及び第二外国語（中国・韓国・ロシア語）の文献を読み、自らの見解を他者に伝え議論するとともに、それぞれの言語圏の政治、経済、社会、歴史、文化、思想等の理解を深めることを目的とした科目です。1年次秋学期には、英語の文献を扱う「基礎演習Ⅰ」を、2年次春学期には、各自が選択する第二外国語の文献を扱う「基礎演習Ⅱ」を配置しています。
- ② クラス分けの方法及びクラス決定までのスケジュールについて
入学以降にあらためて説明します。

(3) 「専門演習」

- ① 「専門演習」とは
専門科目として「国際関係専門演習」を配置し、必修科目に指定します。
「国際関係専門演習」は同一教員の指導の下に2年次秋学期から4年次まで履修し、本学部での学びの集大成として成果をまとめる「卒業研究」の土台となる重要な科目です。

- ② 国際関係専門演習の選択方法及びクラス決定までのスケジュールについて
2年次春学期に周知します。
- ③ 国際関係専門演習クラスの変更について
原則として国際関係専門演習のクラスは変更することはできません。

6 国際関係コースの自由選択科目の履修上の注意事項

卒業要件の124単位のうち10単位について、「自由選択科目」として、本学部の「基礎教養科目群」、「専門基礎科目群」、「専門科目群」、「地域政策学部科目」の中から科目群に制限されずに自由に選択履修できるようにしています。

①国際コミュニケーションコース科目の選択科目、②各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、③地域政策学部の科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目が「自由選択科目」の単位として算入されます。

③については申込が必要です。申込方法についてはUNIPAの掲示を確認してください。

なお、授業科目によっては受講に条件（科目担当教員の許可等）がありますので、各授業科目のシラバスを十分確認してください。

7 国際関係コースのその他、履修上の注意事項

(1) 先修条件のある科目の履修について

授業科目によっては、当該科目を受講するまでに履修しておく必要がある（又は履修が推奨される）科目を設定しています。シラバスに記載していますので、履修を希望する場合は注意してください。

(2) 履修人数制限のある科目の履修について

授業科目によっては、履修人数に制限を設ける場合がありますので各授業科目のシラバスを十分に確認してください。制限を設ける場合は担当教員が履修を許可した学生のみ登録が認められます。履修可能人数を超過した場合は、学務課教務係から学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」により周知します。

Ⅶ 国際コミュニケーションコース

1 国際コミュニケーションコースの教育方針 (ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー	<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)英語および北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）の構造を理解し、それらの言語が使用されている国や文化に対する深い理解がある。</p> <p>(2)国際的なコミュニケーションに関する諸問題について、言語学およびコミュニケーション学の観点からの確に把握することができる。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>国際的なコミュニケーションに関する諸問題について、複眼的な視点から問題を分析し、知識を体系的に整理して、解決策を構想することができる。</p> <p>3. 態度・実践</p> <p>異質な意見を持つ多彩な他者と共通理解を形成することを望み、目標を達成するために積極的にコミュニケーションを深めることができる。</p> <p>4. 技能・技術</p> <p>(1)国際的なコミュニケーションに関する諸問題について、適切な学術的方法や専門的視角に基づいて調査、分析、研究を行い、その成果について、他者にわかりやすく論理的に説明することができる。</p> <p>(2)英語の4技能を流暢に駆使し、英語でのコミュニケーションを十分に取ることができるほか、北東アジア言語を用いてコミュニケーションを取る素養と多角的な視野を身につけている。</p>
------------	---

教育課程編成の考え方

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、日本と海外の社会や文化についての関心を高めるとともに、これらをめぐる諸問題について捉える視点を養うために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修します。また、情報・統計処理の基礎を学修するために、「情報・統計科目」を履修します。
- (2) 外国語活用能力の基盤を修得するとともに、海外の文化についての理解を深めるために「語学・多文化理解科目」を履修します。
- (3) 大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、初年次教育の効果を高めるべく、少人数ゼミの「スタディスキル」を必修とし、専門基礎科目との学修上の連携を図ります。
- (4) 1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際コミュニケーションコース科目」と「国際関係学科共通科目」または「国際関係コース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を履修し、国際的な文化、コミュニケーションに関する諸問題の背景や言語学の基礎について学修するとともに、英語や北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）の運用能力の基礎を身につけます。
- (5) 2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目を中心に所定の単位を履修し、コミュニケーション学や言語学の専門的知識について学修するとともに、国際通用語である英語については「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に高いレベルで身につけ、また、北東アジア言語については実践的なコミュニケーション力を身につけます。
- (6) 4年次には、1年次から多様な分野を学修して培った高度な専門知識や学際的な視点を活用して、卒業研究に関わる調査・分析・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

学習内容及び学習方法

- ・一般教養や、言語学・コミュニケーション学及び多文化共生・国際社会を理解するための基礎・専門知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- ・英語や北東アジア言語の実践的な運用能力を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。

2 国際コミュニケーションコースの教育課程の構成と卒業要件

国際コミュニケーションコースの教育課程及び卒業要件の概要は、以下のとおりです。留学生は次項の留学生用の別表が適用されます。

区分	必修	選択必修	選択	区分計	備考
基礎教養科目群	10	4	16	30	
一般教養科目	-	-			
語学・多文化理解科目	8	4	16		【必修】「英語Ⅰ・Ⅱ」「ビジネス英語入門Ⅰ・Ⅱ」 【選択必修】「●●語Ⅰ・Ⅱ」
キャリア科目	2	-			【必修】キャリアプランニング
専門基礎科目群	16	6	18	40	
国際関係学科共通科目	2	-			【必修】「多文化共生論入門」
国際関係コース科目	-	-	8		
国際コミュニケーションコース科目	10	6	10		【必修】「コミュニケーション学概論」「言語学概論」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「エッセイライティングⅠ」 【選択必修】「●●語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」及び「●●語読解Ⅰ・Ⅱ」
演習科目	4	-	-		【必修】「スタディスキルⅠ・Ⅱ」
専門科目群	12	0	28	40	
国際関係コース科目	-	-		(注)	
国際コミュニケーションコース科目	-	-	20	8	
演習科目	12	-	-		【必修】「国際コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際コミュニケーション専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
自由選択科目	-	-	10	10	①各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、②地域政策学部科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目
卒業研究	4	-	-	4	
計	42	10	72	124	

※●●語＝中国語、韓国語、ロシア語

※自由選択科目の要件単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な124単位に含まれない「要件外（自由科目）」の単位として算入されます。

(注) 専門科目群 選択科目 20単位と8単位の表記について

専門科目群の選択科目について、20単位は国際コミュニケーションコース科目から選択し、8単位は、国際関係コース科目または国際コミュニケーションコース科目の中から選択して履修しなければなりません。言い換えると、選択科目28単位のうち、28単位すべてを国際コミュニケーションコース科目から選択してもよいし、もしくは8単位までは国際関係コース科目から選択してもよいという意味です。

(留学生用)

区分	必修	選択必修	選択		区分計	備考
基礎教養科目群	10	8	12		30	
一般教養科目	-	-	12			【必修】「英語Ⅰ・Ⅱ」「ビジネス英語入門Ⅰ・Ⅱ」 【選択必修】「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」 【必修】キャリアプランニング
語学・多文化理解科目	8	8				
キャリア科目	2	-				
専門基礎科目群	16	0	24		40	
国際関係学科共通科目	2	-	(注1) 14			【必修】「多文化共生論入門」 【必修】「コミュニケーション学概論」「言語学概論」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「エッセイライティングⅠ」 【必修】「スタディスキルⅠ・Ⅱ」
国際関係コース科目	-	-				
国際コミュニケーションコース科目	10	-				
演習科目	4	-	-			
専門科目群	12	0	28		40	
国際関係コース科目	-	-	(注2) 8			【必修】「国際コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際コミュニケーション専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
国際コミュニケーションコース科目	-	-				
演習科目	12	-	-			
自由選択科目	-	-	10		10	①各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、②地域政策学部科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目
卒業研究	4	-	-		4	
計	42	8	74		124	

※留学生が、基礎教養科目群の北東アジア言語科目（海外中国語研修、海外韓国語研修、海外ロシア語研修を除く）を履修した場合は自由選択科目とし、専門基礎科目群の北東アジア言語科目を履修した場合は選択科目とする。ただし、ダブルディグリー生については別途定める。

（注1）専門基礎科目群 選択科目 10 単位と 14 単位の表記の説明

演習科目を除く専門基礎科目群の選択科目について、10 単位は国際コミュニケーションコース科目から選択し、14 単位は、国際関係学科共通科目、国際関係コース科目、国際コミュニケーションコース科目の中から選択して履修しなければなりません。言い換えると、24 単位を選択科目とするが、そのうち 10 単位は国際コミュニケーションコース科目から選択しなければなりません、残り 14 単位は国際関係学科共通科目、国際関係コース科目、国際コミュニケーションコース科目の中からどれを選択してもよいという意味です。

（注2）専門科目群 選択科目 20 単位と 8 単位の表記について

専門科目群の選択科目について、20 単位は国際コミュニケーションコース科目から選択し、8 単位は、国際関係コース科目または国際コミュニケーションコース科目の中から選択して履修しなければなりません。言い換えると、選択科目 28 単位のうち、28 単位すべてを国際コミュニケーションコース科目から選択してもよいし、もしくは 8 単位までは国際関係コース科目から選択してもよいという意味です。

3 国際コミュニケーションコースの英語及び北東アジア言語の履修について

基礎教養科目群、専門基礎科目群（国際コミュニケーションコース科目）、専門科目群（国際コミュニケーションコース科目）に、それぞれ「英語科目」「北東アジア言語科目」が配置されています。履修にあたっては、以下の内容について十分確認してください。

(1) 英語科目

① 必修科目の履修

次の科目は必修科目です。配当年次に履修するよう心掛けてください。

科目区分	科目名	配当年次	単位数
基礎教養科目群	英語Ⅰ	1 年春学期	2
	英語Ⅱ	1 年秋学期	2
	ビジネス英語入門Ⅰ	1 年春学期	2
	ビジネス英語入門Ⅱ	2 年秋学期	2
専門基礎科目群	英語コミュニケーションⅠ	2 年春学期	2
	エッセイライティングⅠ	2 年春学期	2
	英語コミュニケーションⅡ	2 年秋学期	2

② 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」のクラス編成及び授業時間について

「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」については、入学時に実施する TOEIC 試験の成績によりクラス編成を行います。クラス編成は、学生情報システム（UNIPA）でお知らせしますので、配布された時間割表で指定されたクラス、教員のコマ及び教室を確認し、授業に出席してください。期限内に TOEIC を受験しなかった場合、「英語Ⅱ」を履修することはできません。

また、「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」の授業は前半クラス・後半クラスに分けて、1回45分の授業を週2回行いますので、注意してください。

第1時限	8:55～9:40 (前半)	9:45～10:30 (後半)
第2時限	10:35～11:20 (前半)	11:25～12:10 (後半)
第3時限	13:05～13:50 (前半)	13:55～14:40 (後半)
第4時限	14:45～15:30 (前半)	15:35～16:20 (後半)
第5時限	16:25～17:10 (前半)	17:15～18:00 (後半)
第6時限	※該当科目なし	

(2) 北東アジア言語科目

① 選択必修科目の履修

北東アジア言語科目は選択必修科目です。「中国語」「韓国語」「ロシア語」のいずれかのうち最低1言語を選択し、配当年次に履修するよう心掛けてください。

基本的には、学生の希望する言語(科目)を履修します。

科目区分	科目名	配当年次	単位数	卒業要件
基礎教養科目群	中国語Ⅰ	1年春学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語Ⅰ	1年春学期	2	
	ロシア語Ⅰ	1年春学期	2	
	中国語Ⅱ	1年秋学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語Ⅱ	1年秋学期	2	
	ロシア語Ⅱ	1年秋学期	2	
専門基礎科目群	中国語コミュニケーションⅠ	2年春学期	1	左記のうち、 いずれか1単位
	韓国語コミュニケーションⅠ	2年春学期	1	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	2年春学期	1	
	中国語コミュニケーションⅡ	2年秋学期	1	左記のうち、 いずれか1単位
	韓国語コミュニケーションⅡ	2年秋学期	1	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	2年秋学期	1	
	中国語読解Ⅰ	2年春学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語読解Ⅰ	2年春学期	2	
	ロシア語読解Ⅰ	2年春学期	2	
	中国語読解Ⅱ	2年秋学期	2	左記のうち、 いずれか2単位
	韓国語読解Ⅱ	2年秋学期	2	
	ロシア語読解Ⅱ	2年秋学期	2	

② 「中国語」「韓国語」「ロシア語」のクラス編成及び授業時間について

基礎教養科目群の北東アジア言語科目(中国語、韓国語及びロシア語のⅠ・Ⅱ)のクラス編成は、学生情報システム(UNIPA)でお知らせします。

③ 「日本語」の履修（留学生のみ）【計8単位】

留学生の皆さんは「日本語Ⅰ～Ⅳ」を、北東アジア言語科目の選択必修科目として履修します。留学生の皆さんが「日本語」に加えて他の北東アジア言語を履修する場合は、母国語を除き、選択科目の単位として取り扱います。

4 国際コミュニケーションコース指定の必修科目（英語科目を除く）について

次の科目は必修科目です。配当年次に履修するよう心掛けてください。

科目区分	科目名	配当年次	単位数	備考
基礎教養科目群	キャリアプランニング	2年秋学期	2	浜田C共通科目
専門基礎科目群	多文化共生論入門	1年春学期	2	国際関係学科 共通科目
	コミュニケーション学概論	1年春学期	2	国際コミュニケーションコース
	言語学概論	1年春学期	2	科目

5 国際コミュニケーションコースの演習科目の履修について

国際関係学部国際関係学科国際コミュニケーションコースでは、1年次から4年次まで、コースの特色を活かした少人数単位の教育を通じて、初歩的なアカデミック・スキルから高度な専門知識とその応用方法に至る学識を習得することを目的に、学部の専任教員が役割を分担しながら、演習形式で以下の授業を行います。

演習科目では、演習（ゼミ）担当教員ごとのクラスに分かれて履修します。

科目区分	科目名	配当年次	単位数
専門基礎科目群	スタディスキルⅠ	1年春学期	2
	スタディスキルⅡ	1年秋学期	2
専門科目群	国際コミュニケーション演習Ⅰ	2年春学期	2
	国際コミュニケーション演習Ⅱ	2年秋学期	2
	国際コミュニケーション専門演習Ⅰ	3年春学期	2
	国際コミュニケーション専門演習Ⅱ	3年秋学期	2
	国際コミュニケーション専門演習Ⅲ	4年春学期	2
	国際コミュニケーション専門演習Ⅳ	4年秋学期	2

(1) 「スタディスキル」

① 「スタディスキル」は、1年次に配当された少人数教育のゼミナールで、大学初年次生が、大学教育レベルのアカデミック・スキルを学び、特に社会科学の文書作成やレポート作成に必要なスキルを修得することを目的とした必修科目です。春学期には、文献購読、内容要約、レジュメ作成、構成ある文章作成の方法を学修する「スタディスキルⅠ」を、秋学期には、大学生として身に付けておかなければならない研究者としての知識と技術を英語で学ぶ「スタディスキルⅡ」を配置し、オンラインエチケット、ITスキル、剽窃を避ける資料作成、プロジェクト管理、デジタルリテラシー、研究倫理を学びます。

② 「スタディスキルⅠ」のクラス分け

「スタディスキルⅠ」は、大学が予め指定をしたクラスにおいて履修をします。クラス分けは1年生向けオリエンテーションで説明します。

③ 「スタディスキルⅡ」のクラス分け

秋学期履修登録の前までに学生情報システム（UNIPA）を通じて発表します。

(2) 「国際コミュニケーション演習」

- ① 専門科目として2年次に「国際コミュニケーション演習」を配置し、必修科目に指定します。「国際コミュニケーション演習Ⅰ」は国際コミュニケーションコースの専任教員全員がオムニバスで担当し、言語、文化、コミュニケーションに関する諸問題について、様々な学問的視点から探求します。「国際コミュニケーション演習Ⅱ」では、大学教育で求められる水準の論文を執筆する上で必要な日本語の文書作成方法と研究倫理を学びます。

② クラス分けの方法及びクラス決定までのスケジュールについて

「国際コミュニケーション演習Ⅰ」はクラス分けを行いません。「国際コミュニケーション演習Ⅱ」のクラス分けは、秋学期履修登録の前までに学生情報システム（UNIPA）を通じて発表します。

(3) 「国際コミュニケーション専門演習」

- ① 専門科目として3・4年次に「国際コミュニケーション専門演習」を配置し、必修科目に指定します。「国際コミュニケーション専門演習」は同一教員の指導の下に3年次から4年次まで履修し、本学部での学びの集大成として成果をまとめる「卒業研究」の土台となる重要な科目です。

② クラスの選択方法及びクラス決定までのスケジュールについて

2年次秋学期に自分が学修したい専門分野を決め、「国際コミュニケーション専門演習」を担当する教員の中から一人を選びます。担当教員についてはシラバスをよく読んでください。

③ クラスの変更について

原則として演習のクラスは変更することはできません。

④ クラス決定までのスケジュール（2年次）

- 10月下旬 シラバス発表
- 11月初旬 担当教員への質問期間（オフィスアワー）
- 11月中旬 希望調査期間（アンケート等）
- 12月下旬から2月上旬 クラス決定

6 国際コミュニケーションコースの自由選択科目の履修上の注意事項

卒業要件の124単位のうち10単位について、「自由選択科目」として、本学部の「基礎教養科目群」、「専門基礎科目群」及び「専門科目群」「地域政策学部科目」の中から科目群に制限されずに自由に選択履修できるようにしています。

①各科目群の卒業要件単位数を超えて履修するもの、②地域政策学部の科目のうち国際関係学部生が履修可能な科目が「自由選択科目」の単位として算入されます。②については申込が必要です。申込方法についてはUNIPAの掲示を確認してください。

なお、授業科目によっては受講に条件（科目担当教員の許可等）がありますので、各授業科目のシラバスを十分確認してください。

7 国際コミュニケーションコースのその他、履修上の注意事項

(1) 先修条件のある科目の履修について

授業科目によっては、当該科目を受講するまでに履修しておく必要がある（又は履修が推奨される）科目を設定しています。シラバスに記載していますので、履修を希望する場合は注意してください。

(2) 履修人数制限のある科目の履修について

授業科目によっては、履修人数に制限を設ける場合がありますので各授業科目のシラバスを十分に確認してください。制限を設ける場合は担当教員が履修を許可した学生のみ登録が認められます。履修可能人数を超過した場合は、学務課教務係から学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」により周知します。

(3) 「クラス担当教員」について

大学における「クラス担当教員」は修学上の問題はもとより、学生生活の諸問題について相談に乗ってくれるアドバイザーです。入学時にクラス担当教員が任意で割り当てられ、1年次と2年次の2年間の学びを支援します。3年次と4年次は演習（ゼミ）担当教員が「クラス担当教員」として、卒業研究の指導や様々な問題について相談に乗ります。クラス担当教員はすべての心配事を解決できる専門家ではありませんが、問題を一緒に考えて、アドバイスします。

- ・留学したいけど、誰に相談していいかわからない
- ・履修について質問したい
- ・推薦状を書いてもらうにはどうしたらいいか
- ・モヤモヤしていることがある
- ・休学、退学したい、等々

のような、大学生活において相談したいことや悩んでいることがあれば、一人で悩まず気軽になんでも「クラス担当教員」にご相談ください。

(4) TOEICについて

国際コミュニケーションコースでは、効果的な教育のために、TOEIC L & R、および TOEIC S & W の受験を義務付けています。スコアはクラス分けと該当科目の成績評価に使用します。TOEIC 受験期間内に受験しなかった場合、TOEIC スコアは成績評価に反映されません。必

ず期間内に受験してください。

(5) 協定留学中の注意について

2年春の「国際コミュニケーション演習 I」は帰国後に履修してください。

2年秋の「国際コミュニケーション演習 II」の履修についてはコーディネーターの先生にお尋ねください。

3年の「国際コミュニケーション専門演習 I, II」の履修については、クラス担当の先生にご相談ください。

3年次から始まる「国際コミュニケーション専門演習」の選択は、2年次の秋学期に行います。2年次秋学期に留学される方は、必ずメールをチェックして、素早く対応するようにしてください。「国際コミュニケーション専門演習」の希望のアンケートに回答することを忘れて「国際コミュニケーション専門演習」を選択する上で不利となりますので、くれぐれもご注意ください。

VIII 国際関係学部 授業科目表
(2026 年度入学者用)

■2026年度国際関係学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

●：必修 ▲：選択必修 ○：選択 △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件	
				国際関係	国際コミュニケーション
基礎教養科目群／一般教養科目	しまね地域共生学入門	1春	2	○	○
	日本の政治	1春	2	○	○
	国際社会と政治	1春	2	○	○
	グローバル時代の平和と安全	1秋	2	○	○
	グローバリゼーション論	1春	2	○	○
	経済学入門	1春	2	○	○
	現代企業論	1秋	2	○	○
	法学入門	1春	2	○	○
	社会学入門	1春	2	○	○
	ジェンダー論	1・2秋	2	○	○
	哲学	1・2春	2	○	○
	日本思想史入門	1・2春	2	○	○
	日本文化論	1・2秋	2	○	○
	人文地理学	1・2秋	2	○	○
	歴史学概論	1春	2	○	○
	西洋近代史	2春	2	○	○
	文学	1・2春	2	○	○
	心理学概論	1・2春	2	○	○
	地域文化入門	1秋	2	○	○
	経済数学の基礎	1春	2	○	○
	自然地理学	1・2秋	2	○	○
	環境科学	1・2秋	2	○	○
	島根県の水産業	1・2秋	2	○	○
	コンピュータ・リテラシー	1春	2	○	○
	情報リテラシー	1春	2	○	○
	統計学Ⅰ	1秋	2	○	○
統計学Ⅱ	2春	2	○	○	
教養ラボⅠ	2通年	4	○	○	
教養ラボⅡ	3通年	4	○	○	
基礎教養科目群／語学多文化理解科目	英語Ⅰ	1春	2	●	●
	英語Ⅱ	1秋	2	●	●
	ビジネス英語入門Ⅰ	1春	2	○	●
	ビジネス英語入門Ⅱ	1秋	2	○	●
	海外英語研修	1秋	2	○	○
	中国語Ⅰ	1春	2	▲	▲
	中国語Ⅱ	1秋	2	▲	▲
	海外中国語研修	2春	2	○	○
	韓国語Ⅰ	1春	2	▲	▲
	韓国語Ⅱ	1秋	2	▲	▲
	海外韓国語研修	2春	2	○	○
	ロシア語Ⅰ	1春	2	▲	▲
	ロシア語Ⅱ	1秋	2	▲	▲
	海外ロシア語研修	2春	2	○	○

■2026年度国際関係学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

●：必修 ▲：選択必修 ○：選択 △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件	
				国際関係	国際コミュニケーション
基礎教養科目群 ／語学多文化理解科目	日本語Ⅰ (留学生のみ履修)	1春	2	▲	▲
	日本語Ⅱ (留学生のみ履修)	1春	2	▲	▲
	日本語Ⅲ (留学生のみ履修)	1秋	2	▲	▲
	日本語Ⅳ (留学生のみ履修)	1秋	2	▲	▲
	異文化理解 (アメリカ)	1秋	2	○	○
	異文化理解 (カナダ)	1春	2	○	○
	異文化理解 (中国)	1春	2	○	○
	異文化理解 (韓国)	1春	2	○	○
	異文化理解 (ロシア語圏)	1春	2	○	○
	多文化交流	1秋	2	○	○
	中国文化入門	1春	2	○	○
基礎教養科目群 ／キャリア科目	キャリアプランニング	2秋	2	●	●
	キャリアプラクティス	1秋	1	○	○
専門基礎科目群 ／学科共通科目	多文化共生論入門	1春	2	●	●
	国際文化論	2春	2	●	○
	地域研究方法論	2春	2	●	○
	平和学	2・3秋	2	○	○
	ポードースタディーズ	2秋	2	○	○
	国際社会学	2・3秋	2	○	○
	文化人類学	1・2春	2	○	○
	比較文化論	1・2秋	2	○	○
	憲法Ⅰ	1秋	2	○	○
	社会学	1秋	2	○	○
	地域観光資源論	1秋	2	○	○
	SDGs概論	1春	2	○	○
専門基礎科目群 ／国際関係コース科目	国際関係概論	1秋	2	●	○
	政治学概論	1春	2	●	○
	政治学	2秋	2	●	○
	北東アジア関係概論	1秋	2	●	○
	国際政治学	2秋	2	●	○
	北東アジア国際関係史	2春	2	○	○
	アメリカ政治外交論	2春	2	○	○
	アジア経済論	2秋	2	○	○
	日本外交史	2秋	2	○	○
	政治思想史	2・3春	2	○	○
	モンゴル語と文化	1・2春	2	○	○
	質的調査法	2春	2	○	○
	数的処理の基礎	1・2秋	2	○	○
	経営学総論	1春	2	○	○
	マクロ経済学	1秋	2	○	○
	ミクロ経済学	1秋	2	○	○
	行政学	1秋	2	○	○
	歴史資料解読法	2春	2	○	○

■2026年度国際関係学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

●：必修 ▲：選択必修 ○：選択 △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件	
				国際関係	国際コミュニケーション
専門基礎科目群／国際コミュニケーションコース科目	コミュニケーション学概論	1春	2	△	●
	言語学概論	1春	2	△	●
	英文法	1秋	2	△	○
	音声学	1秋	2	△	○
	英語音韻論	2春	2	△	○
	社会言語学	2春	2	△	○
	比較言語文化論	2秋	2	△	○
	異文化コミュニケーション論	2春	2	△	○
	英語コミュニケーションⅠ	2春	2	△	●
	英語コミュニケーションⅡ	2秋	2	△	●
	エッセイライティングⅠ	2春	2	△	●
	エッセイライティングⅡ	2秋	2	△	○
	英字新聞リーディング	2春	2	△	○
	英語アカデミックリーディング	2秋	2	●	○
	中国語コミュニケーションⅠ	2春	1	△	▲
	中国語コミュニケーションⅡ	2秋	1	△	▲
	中国語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲
	中国語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲
	韓国語コミュニケーションⅠ	2春	1	△	▲
	韓国語コミュニケーションⅡ	2秋	1	△	▲
	韓国語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲
	韓国語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲
	ロシア語コミュニケーションⅠ	2春	1	△	▲
	ロシア語コミュニケーションⅡ	2秋	1	△	▲
	ロシア語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲
	ロシア語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲
専門基礎科目群／演習科目	アカデミック・ライティング (国際関係)	1春	2	●	
	スタディスキルⅠ	1春	2		●
	スタディスキルⅡ	1秋	2		●
専門科目群／国際関係コース科目	モンゴル文化社会論	2・3春	2	○	○
	日中交流史	2・3・4秋	2	○	○
	朝鮮半島社会論	2・3秋	2	○	○
	ロシア社会論	2・3春	2	○	○
	ロシア文化論	2・3秋	2	○	○
	比較宗教学	2・3・4秋	2	○	○
	社会宗教論	2・3秋	2	○	○
	北東アジア民族関係論	2・3・4秋	2	○	○
	グローバル市民社会論	2・3春	2	○	○
	アジア環境論	2・3春	2	○	○
	アジアのイスラーム世界	2・3春	2	○	○
	南アジア研究	2・3春	2	○	○
	環境経済学	3・4秋	2	○	○
	環境システム論	3・4秋	2	○	○
	政策過程論	2・3春	2	○	○
	NPO論	2・3秋	2	○	○
	憲法Ⅱ	2・3春	2	○	○
	比較憲法	2・3秋	2	○	○
	文化社会学	2・3秋	2	○	○
	福祉社会学	2・3秋	2	○	○

■2026年度国際関係学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

●：必修 ▲：選択必修 ○：選択 △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件	
				国際関係	国際コミュニケーション
専門科目群／国際関係コース科目	中国政治社会論	2・3春	2	○	○
	中国外交論	2・3秋	2	○	○
	朝鮮半島政治論	2・3春	2	○	○
	朝鮮半島外交論	2・3春	2	○	○
	日朝関係史	2・3・4秋	2	○	○
	ロシア政治経済論	2・3・4秋	2	○	○
	日露関係論	2・3秋	2	○	○
	アジア比較政治	2・3・4春	2	○	○
	グローバル・ガバナンス論	2・3秋	2	○	○
	国際法	2・3春	2	○	○
	国際機構論	2・3春	2	○	○
	ヨーロッパ統合論	2・3秋	2	○	○
	国際開発論	3・4春	2	○	○
	政治哲学	2・3秋	2	○	○
	専門科目群／国際コミュニケーションコース科目	日本語教育概論	2春	2	△
コーパス言語学		3・4春	2	△	○
対照言語学		3・4春	2	△	○
英語学特別演習		3秋	2	△	○
中国言語文化研究		3秋	2	△	○
韓国語学概論		3春	2	△	○
言語文化研究(ロシア語)		3秋	2	△	○
デジタルコミュニケーション論		2秋	2	△	○
映像コミュニケーション論		2・3春	2	△	○
映像表現論		2・3秋	2	△	○
ローカル・ジャーナリズム論		2・3・4春	2	△	○
英米文学リーディング		3・4春	2	△	○
コミュニケーション研究法		3秋	2	△	○
対人コミュニケーション論		3春	2	△	○
グローバルディスカッションⅠ		3春	2	△	○
グローバルディスカッションⅡ		3秋	2	△	○
ビジネス英語Ⅰ		2春	2	△	○
ビジネス英語Ⅱ		2秋	2	△	○
プレゼンテーション		2春	2	△	○
ディベート		2秋	2	△	○
リサーチペーパー・ライティング		3秋	2	△	○
中国語音韻論		2秋	2	△	○
実践中国語Ⅰ		3春	2	△	○
実践中国語Ⅱ		3秋	2	△	○
韓国語音声学		2春	2	△	○
韓国のことばと社会		2秋	2	△	○
実践韓国語Ⅰ		3春	2	△	○
実践韓国語Ⅱ		3秋	2	△	○
実践ロシア語Ⅰ		3春	2	△	○
実践ロシア語Ⅱ		3秋	2	△	○

■2026年度国際関係学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

●：必修 ▲：選択必修 ○：選択 △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件	
				国際関係	国際コミュニケーション
専門科目群／演習科目	基礎演習Ⅰ	1秋	2	●	
	基礎演習Ⅱ	2春	2	●	
	国際関係専門演習Ⅰ	2秋	2	●	
	国際関係専門演習Ⅱ	3春	2	●	
	国際関係専門演習Ⅲ	3秋	2	●	
	国際関係専門演習Ⅳ	4春	2	●	
	国際関係専門演習Ⅴ	4秋	2	●	
	国際コミュニケーション演習Ⅰ	2春	2		●
	国際コミュニケーション演習Ⅱ	2秋	2		●
	国際コミュニケーション専門演習Ⅰ	3春	2		●
	国際コミュニケーション専門演習Ⅱ	3秋	2		●
	国際コミュニケーション専門演習Ⅲ	4春	2		●
	国際コミュニケーション専門演習Ⅳ	4秋	2		●
	卒業研究(国際関係学部)	4秋	4	●	●
自由選択科目	他の大学等で開設する授業科目のうち国際関係学部が単位互換科目と認めた科目並びに地域政策学部が国際関係学部に開放する授業科目		当該科目に定められている単位数	△	△

■参考：2026年度地域政策学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

※基礎教養科目群以外の科目を修得した場合、自由選択科目の単位として算入されます

●：必修 ○：選択 ◎：コースコア領域科目(選択) 関：コース関連領域科目(選択) △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件		
				経済経営DM	地域公共	地域づくり
基礎教養科目群／一般教養科目	しまね地域共生学入門	1春	2	○	○	○
	日本の政治	1春	2	○	○	○
	国際社会と政治	1春	2	○	○	○
	グローバル時代の平和と安全	1秋	2	○	○	○
	グローバリゼーション論	1春	2	○	○	○
	経済学入門	1春	2	●	○	○
	現代企業論	1秋	2	○	○	○
	法学入門	1春	2	○	○	○
	社会学入門	1春	2	○	○	○
	ジェンダー論	1・2秋	2	○	○	○
	哲学	1・2春	2	○	○	○
	日本思想史入門	1・2春	2	○	○	○
	日本文化論	1・2秋	2	○	○	○
	人文地理学	1・2秋	2	○	○	○
	歴史学概論	1春	2	○	○	○
	西洋近代史	2春	2	○	○	○
	文学	1・2春	2	○	○	○
	心理学概論	1・2春	2	○	○	○
	地域文化入門	1秋	2	○	○	○
	経済数学の基礎	1春	2	○	○	○
	自然地理学	1・2秋	2	○	○	○
	環境科学	1・2秋	2	○	○	○
	島根県の水産業	1・2秋	2	○	○	○
	コンピュータ・リテラシー	1春	2	○	○	○
	情報リテラシー	1春	2	○	○	○
	統計学Ⅰ	1秋	2	○	○	○
	統計学Ⅱ	2春	2	○	○	○
	教養ラボⅠ	2通年	4	○	○	○
	教養ラボⅡ	3通年	4	○	○	○
	基礎教養科目群／語学多文化理解科目	英語Ⅰ	1春	2	●	●
英語Ⅱ		1秋	2	●	●	●
ビジネス英語入門Ⅰ		1春	2	○	○	○
ビジネス英語入門Ⅱ		1秋	2	○	○	○
海外英語研修		1秋	2	○	○	○
中国語Ⅰ		1春	2	○	○	○
中国語Ⅱ		1秋	2	○	○	○
海外中国語研修		2春	2	○	○	○
韓国語Ⅰ		1春	2	○	○	○
韓国語Ⅱ		1秋	2	○	○	○
海外韓国語研修		2春	2	○	○	○
ロシア語Ⅰ		1春	2	○	○	○
ロシア語Ⅱ		1秋	2	○	○	○
海外ロシア語研修		2春	2	○	○	○
日本語Ⅰ(留学生のみ履修)		1春	2	○	○	○
日本語Ⅱ(留学生のみ履修)		1春	2	○	○	○
日本語Ⅲ(留学生のみ履修)		1秋	2	○	○	○
日本語Ⅳ(留学生のみ履修)		1秋	2	○	○	○

■参考：2026年度地域政策学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

※基礎教養科目群以外の科目を修得した場合、自由選択科目の単位として算入されます

●：必修 ○：選択 ◎：コースコア領域科目（選択） 関：コース関連領域科目（選択） △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件		
				経済経営DM	地域公共	地域づくり
語学基礎教養科目群／ 多文化理解科目	異文化理解（アメリカ）	1秋	2	○	○	○
	異文化理解（カナダ）	1春	2	○	○	○
	異文化理解（中国）	1春	2	○	○	○
	異文化理解（韓国）	1春	2	○	○	○
	異文化理解（ロシア語圏）	1春	2	○	○	○
	多文化交流	1秋	2	○	○	○
	中国文化入門	1春	2	△	○	△
基礎教養科目群／ キャリア科目	キャリアプランニング	2秋	2	●	●	●
	キャリアプラクティス	1秋	1	○	○	○
専門基礎科目群／ 学科コア科目	地域政策概論	1春	2	●	●	●
	地域社会論	1秋	2	●	●	●
専門基礎科目群／ リサーチ科目	社会調査法	1秋	2	○	○	○
	質的調査法	2春	2	○	○	○
	アカデミックライティング	1春	2			●
	数的処理の基礎	1・2秋	2	○	○	○
専門基礎科目群／ 国際理解科目	国際政治学	2秋	2	○	○	○
	国際関係概論	1秋	2	○	○	○
	平和学	2秋	2	○	○	○
	多文化共生論入門	1春	2	○	○	○
	北東アジア国際関係史	2春	2	○	○	○
	文化人類学	1・2春	2	○	○	○
専門基礎科目群／ 実習科目	フィールド基礎実習A	1・2春	2	○	○	○
	フィールド基礎実習B	1・2春	2	○	○	○
	地域理解（国内研修）	2・3春	2	○	○	○
専門基礎科目群／ 選択科目	マクロ経済学	1秋	2	●	◎	関
	ミクロ経済学	1秋	2	●	◎	関
	アジア経済論	2秋	2	◎	関	△
	経営学総論	1春	2	●	関	関
	会計学	2春	2	◎	△	関
	中小企業論	2春	2	◎	関	◎
	経営組織論	2秋	2	◎	関	◎
	地域観光資源論	1秋	2	◎	関	◎
	地域資源活用法	2秋	2	関	△	●
	地域思想論	1秋	2	関	関	●
	社会事業論	1秋	2	関	関	◎
	憲法 I	1秋	2	関	◎	関
	行政法 I	2春	2	△	◎	△
	民法 I（総則）	1秋	2	関	◎	関
	民法と家族	1秋	2	△	◎	関
	行政学	1秋	2	関	◎	関
	政治学概論	1春	2	△	◎	△
	政治学	2秋	2	△	◎	△
	政治思想史	2・3春	2	△	◎	△
	社会学	1秋	2	関	◎	◎
	SDGs概論	1春	2	◎	関	●
	自然保護思想	1春	2	△	関	◎
	コミュニケーション学概論	1春	2	△	◎	関
	コミュニティ政策論	2春	2	関	関	◎
	グローバル市民社会論	2春	2	△	関	◎
	歴史資料解読法	2春	2	△	△	◎
	地域文化論	1秋	2	△	△	◎

■参考：2026年度地域政策学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

※基礎教養科目群以外の科目を修得した場合、自由選択科目の単位として算入されます

●：必修 ○：選択 ◎：コースコア領域科目(選択) 関：コース関連領域科目(選択) △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件		
				経済経営DM	地域公共	地域づくり
専門基礎科目群/ 演習科目	地域経済経営基礎演習	1秋	2	●		
	地域公共基礎演習	1秋	2		●	
	地域づくり基礎演習	1秋	2			●
専門科目群/ 選択科目	計量経済学	2・3春	2	◎	関	関
	地域経済論	2・3秋	2	◎	△	関
	交通・観光経済論	2・3秋	2	◎	◎	関
	農業経済政策論	3・4春	2	◎	関	関
	地域産業政策論	3・4秋	2	◎	関	△
	財政学	2・3春	2	◎	◎	関
	公共政策論	2・3春	2	◎	◎	関
	経営管理論	2秋	2	◎	関	△
	マーケティング論	2春	2	◎	関	◎
	ベンチャービジネス論	2・3春	2	◎	△	関
	企業会計	2秋	2	◎	△	○
	地域金融論	2・3春	2	◎	△	関
	経営戦略論	3・4春	2	◎	△	△
	意思決定論	2・3・4春	2	◎	関	△
	環境経済学	2・3・4秋	2	◎	△	◎
	公共経済論	2・3春	2	◎	◎	関
	地域経営論	2・3春	2	関	関	◎
	ブランディング論	2・3春	2	△	△	◎
	起業実践法	3・4春	2	関	△	◎
	憲法Ⅱ	2・3春	2	関	◎	関
	比較憲法	2・3秋	2	△	◎	△
	刑法	1・2秋	2	△	◎	△
	行政法Ⅱ	2・3秋	2	△	◎	△
	環境法	2・3秋	2	△	◎	△
	労働法	2・3春	2	関	◎	△
	民法Ⅱ(物権)	2・3春	2	関	◎	△
	民法Ⅲ(債権)	2・3春	2	関	◎	△
	商法	2・3春	2	関	◎	△
	国際法	2・3春	2	△	◎	△
	地方政治	2・3秋	2	△	◎	△
	政治哲学	2・3秋	2	△	◎	△
	政治過程論	2・3春	2	△	◎	関
	現代政治分析	2・3・4秋	2	△	◎	関
	地方自治論	2・3春	2	関	◎	関
	政策過程論	2・3春	2	関	◎	△
	地域交通政策論	2・3秋	2	関	◎	△
	文化政策論	2・3秋	2	△	◎	◎
	家族社会学	2・3春	2	△	◎	◎
	文化社会学	2・3秋	2	△	◎	◎
	福祉社会学	2・3秋	2	△	◎	◎
	社会保障論	2・3春	2	関	◎	◎
	関係人口論	2・3・4秋	2	関	◎	◎
	NPO論	2・3秋	2	△	◎	◎
ボランティア論	2・3春	2	△	関	◎	
コミュニティデザイン論	2春	2	関	関	◎	
ローカル・ジャーナリズム論	2・3・4春	2	△	△	◎	
地域ネットワーク活用法	2・3春	2	△	△	◎	
文化遺産活用法	2・3・4秋	2	△	△	◎	

■参考：2026年度地域政策学部 授業科目表 (2026年度入学者用)

※基礎教養科目群以外の科目を修得した場合、自由選択科目の単位として算入されます

●：必修 ○：選択 ◎：コースコア領域科目(選択) 関：コース関連領域科目(選択) △：自由選択科目として履修可能

科目分類	科目名	配当年次	単位数	卒業要件			
				経済経営DM	地域公共	地域づくり	
専門科目群／ 選択科目	日本政治思想史(近世)	2・3秋	2	△	関	◎	
	日本政治思想史(近代)	2・3秋	2	△	関	◎	
	社会宗教論	2・3秋	2	△	△	◎	
	映像表現論	2・3秋	2	△	△	◎	
	地域総合計画論	2・3春	2	△	関	◎	
	国際開発論	2・3春	2	△	関	関	
	環境政策論	2・3・4春	2	△	関	◎	
	環境システム論	2・3・4秋	2	△	関	◎	
	環境保全論	2・3秋	2	△	△	◎	
	アジア環境論	2・3春	2	△	関	関	
	データ分析1(基礎編)	2春	2	◎	関	関	
	データ分析2(応用編)	2秋	2	◎	関	関	
	データ分析3(活用編)	3春	2	◎	関	関	
	プロジェクトマネジメント1(基礎編)	2秋	2	◎	△	○	
	プロジェクトマネジメント2(応用編)	3春	2	◎	△	○	
	プロジェクトマネジメント3(活用編)	3秋	2	◎	△	○	
	コンピュータシステム1(ハードウェアとソフトウェア)	2春	2	◎	△	△	
	コンピュータシステム2(ネットワークとデータベース)	2秋	2	◎	△	△	
	システム開発技術	3春	2	◎	△	△	
	行動経済学	2春	2	○	△	○	
	行動科学	2秋	2	○	△	○	
	イノベーション思考	3春	2	○	△	○	
	生産管理論	2・3春	2	◎	△	△	
	経営情報システム論	2・3春	2	◎	△	△	
	専門科目群／ 演習科目	地域マネジメント演習Ⅰ	2春	2	●		
		地域マネジメント演習Ⅱ	2秋	2	●		
地域マネジメント演習Ⅲ		3春	2	●			
地域マネジメント演習Ⅳ		3秋	2	●			
地域マネジメント演習Ⅴ		4春	2	●			
地域マネジメント演習Ⅵ		4秋	2	●			
専門演習Ⅰ(地域政策学部)		2春	2		●		
専門演習Ⅱ(地域政策学部)		2秋	2		●		
専門演習Ⅲ(地域政策学部)		3春	2		●		
専門演習Ⅳ(地域政策学部)		3秋	2		●		
専門演習Ⅴ(地域政策学部)		4春	2		●		
専門演習Ⅵ(地域政策学部)		4秋	2		●		
地域プロジェクト研究ⅠA		2春	2			●	
地域プロジェクト研究ⅠB		2秋	2			●	
地域プロジェクト研究ⅡA		3春	2			●	
地域プロジェクト研究ⅡB		3秋	2			●	
卒論演習Ⅰ		4春	2			●	
卒論演習Ⅱ		4秋	2			●	
卒業研究(地域政策学部)		4秋	4	●	●	●	
自由選択科目	他の大学等で開設する授業科目のうち国際関係学部が単位互換科目と認めた科目並びに地域政策学部が国際関係学部に開放する授業科目		当該科目に定められている単位数	△	△	△	

(別表)

国際関係学部 入学年度による科目読替一覧表

2025年度以降入学者	2024年度以前入学者
科目名	科目名
異文化理解 (ロシア語圏)	異文化理解(ロシア)
地域観光資源論	地域資源論
アカデミック・ライティング (国際関係)	アカデミックライティングI
アカデミック・ライティング (国際関係)	アカデミックライティングII
スタディスキルI	アカデミックライティングI
スタディスキルII	アカデミックライティングII
環境経済学	環境経済論
グローバルディスカッションI	グローバルディスカッション
グローバルディスカッションII	グローバル・コラボレーション
日本語教育概論	第二言語習得論
英語学特別演習	言語文化研究 (英語)
中国言語文化研究	言語文化研究 (中国語)
韓国語学概論	言語文化研究 (韓国語)
英米文学リーディング	文学批評論
コミュニケーション研究法	コミュニケーション分析法
基礎演習I	基礎演習IA
基礎演習II	基礎演習II A
国際関係専門演習I	
国際関係専門演習II	専門演習I (国際関係学部)
国際関係専門演習III	専門演習II (国際関係学部)
国際関係専門演習IV	専門演習III (国際関係学部)
国際関係専門演習V	専門演習IV (国際関係学部)
国際コミュニケーション演習I	基礎演習IB
国際コミュニケーション演習II	基礎演習II B
国際コミュニケーション専門演習I	専門演習I (国際関係学部)
国際コミュニケーション専門演習II	専門演習II (国際関係学部)
国際コミュニケーション専門演習III	専門演習III (国際関係学部)
国際コミュニケーション専門演習IV	専門演習IV (国際関係学部)

※斜線の部分は、読替科目がありません。